

令和7年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

実施機関名(主事業の実施機関名)	岩手県 沿岸広域振興局土木部 岩泉土木センター
ふ り が な	にきゅうかせんおもとがわ・しずがわかせんげきじんさいがいたいさくとくべつきんきゅうじぎょう
1. 事業(施策)の名称	二級河川小本川・清水川河川激甚災害対策特別緊急事業
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	平成 28 年 12 月 9 日 ～ 令和 7 年 10 月 31 日
災害枠で推薦の場合	(災害発生日) 平成 28 年8月 30 日 (災害名) 台風第 10 号豪雨
3. 事業費(工事費)	約 26,250 百万円
4. キーワード	県内最大規模、輪中堤、県の河川事業初の宅地嵩上げ、 狭隘な施工ヤード、掘削土処理量の削減、整備効果発現
5. 事業概要	平成 28 年台風第 10 号で大規模浸水被害が発生した岩泉町小本川及び清水川において、再度災害防止と早期の復旧・復興が求められる中、総延長約 50km に及ぶ県内最大規模の河川改修を計画。河道拡幅など掘削土量約 350 万 m³、護岸工約 11 万 m² にも及ぶ大規模事業に対して、県、地元建設業者等が一丸となり、約9年の歳月をかけて本事業区間(約 26km)を完成させた。

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた 取組
アピールする 1)「手段」	(d)令和3年2月に全国に先駆けて策定した「小本川流域治水プロジェクト」に掲げる河川改修事業の実施。 (b)地域特性を踏まえ、「輪中堤の整備」や「県の河川事業初の宅地嵩上げ」を組み合わせた浸水被害防止対策を実施。 (b)狭隘な施工ヤード内での橋梁架け替えが最大の課題となっていたが、河川内への仮設構台設置や、プレキャスト函渠形式の採用により、これを克服。 (b)小本川河川改修工事に伴い、約 350 万 m³ の掘削土が発生。この掘削土を短期間で処理する取組として、新たに「公募型土石採取事業」を創設・導入。	() () () ()
アピールする 2)「秀でた成果」	(a)河川改修により治水安全度が大幅に向上。令和6年8月の台風第5号では、整備効果が発現され、防災・減災に大きく寄与。 (b)「公募型土石採取事業」の導入により、約 30 万 m³ の掘削土処理量を削減。	() () () ()

7. 特にアピールしたい点

- ・小本川流域治水プロジェクトに掲げる県内最大規模の河川改修であること。
- ・「輪中堤の整備」や「県の河川事業初の宅地嵩上げ」を組み合わせ、効率的かつ経済的に事業を進めたこと。
- ・清水川工区では、狭隘な施工ヤードでの橋梁架け替えを、河川内に仮設構台を設置し、また分割部材を組み立てるプレキャスト函渠形式を採用し、克服したこと。
- ・公募型土石採取事業を創設・導入し、公募で決定した者が掘削土を砂や碎石等に製品化。約 30 万 m³ の処理量を削減したこと。
- ・令和6年8月の台風第5号は、甚大な被害をもたらした平成28年台風第10号と同規模の降雨であったが、整備効果により浸水被害はなかったこと。

8. 事業を代表する写真及びキャプション



完成写真(小本川乙茂工区)



完成写真(清水川工区)

・乙茂工区は、小本川の氾濫で高齢者施設の入所者9名全員が亡くなるなど、甚大な被害を受けたことから、台風第10号災害の象徴的な地区として語り継がれている。

被災前は無堤区間であったため、**河道掘削、築堤を実施**し、河積断面を 1/5 年確率相当から 1/30 年確率相当(被災流量を安全に流下可能な断面)に拡大することで、**地域の治水安全度が向上**。令和6年8月の台風第5号では**整備効果が発現**され、河川氾濫による浸水被害はなかった。

・清水川工区は、河川の両岸に人家が近接しており、施工ヤードが狭隘であった。

近接する3橋の施工にあたり、**河川内に仮設構台を設置し、プレキャスト函渠形式**による分割部材を組み立てることで、**出水期前に工事を完成させ、地域の治水安全度を向上**させた。

地域の声！ (岩泉土木センター制作動画「いわいずみ9年のキセキ」より)



乙茂部落会長
熊谷 敏子さん

この堤防も高く感じますし これだったら安心です



岩泉ホールディングス株式会社
執行役員 乳業事業部統括(当時：工場長)
保呂草 久さん

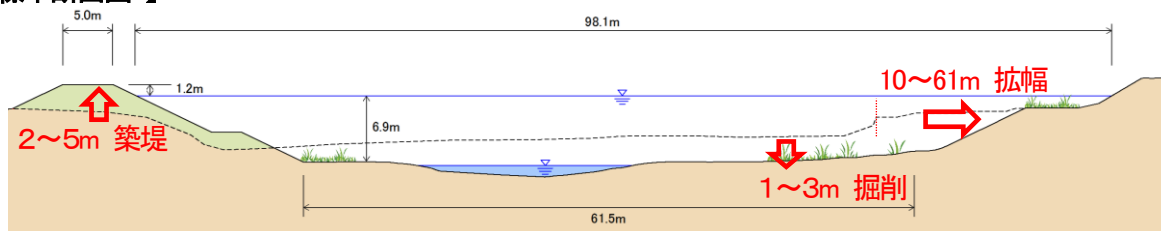
立派な堤防を造っていただいて 安心して

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P I の方法 等)〕

【位置図・被災状況写真】



【標準断面図】



【輪中堤・宅地嵩上げ】



宮本地区、中里地区、中島地区及び卒郡地区では、河川の堤内地に農地があり、その山側に集落が位置している。

この状況を踏まえ、**効率的かつ経済的な河川改修として「輪中堤」を計画**。小本川治水対策に関する説明会を 30 回以上重ね、地域の理解を得たうえで整備を実施した。

本対策では、**農地への浸水を許容し、輪中堤によって集落を守る**手法を採用している。

なお、農地については、新たな浸水被害を防止するため、岩泉町が**災害危険区域**を指定し、住居の建築を制限している。

袋野地区及び乙茂(三田市)地区では、**家屋が点在していることから、河川改修を行うよりも効率的かつ経済的な対策として、住家そのものを嵩上げ**し、浸水被害を防止する手法を採用した。

なお、この手法は、**県の河川改修事業では初の取組**である。



9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

【 狭隘な区間での対応 】



清水川工区 仮設構台設置状況(大橋施工時)

【 課題 】

清水川工区の橋梁架け替え(大橋、永代橋、下の橋)にあたり、以下の課題があった。

- ① 河川両岸に人家が建ち並び、**周辺道路の幅員が狭隘**で、最大幅員4mの下の橋左岸の町道が唯一の搬入路であったこと。
- ② **施工時期について、出水期前に河道内の作業を終える必要**があったこと。

【 課題への対応 】

河川内に仮設構台を設置し、限られたスペースで施工ヤードを確保した。さらに、狭隘な現場条件に対応するため、部材を分割して搬入できる**プレキャスト函渠形式**を採用し、現場での橋の架設作業を工夫した。

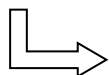
これらにより、現場の課題を克服し、**出水期前に施工を終える**ことができた。



中里地区プラント(公募型土石採取事業地)

【 掘削土処理量の削減 】

- ・工事に伴い、**約 350 万 m³ の掘削土が発生**
- ・短期間で大量の掘削土を処理するため、「**公募型土石採取事業**」を創設・導入
- ・公募で決定した**土石採取者が掘削土を原料に砂や碎石等に選別し製品化**



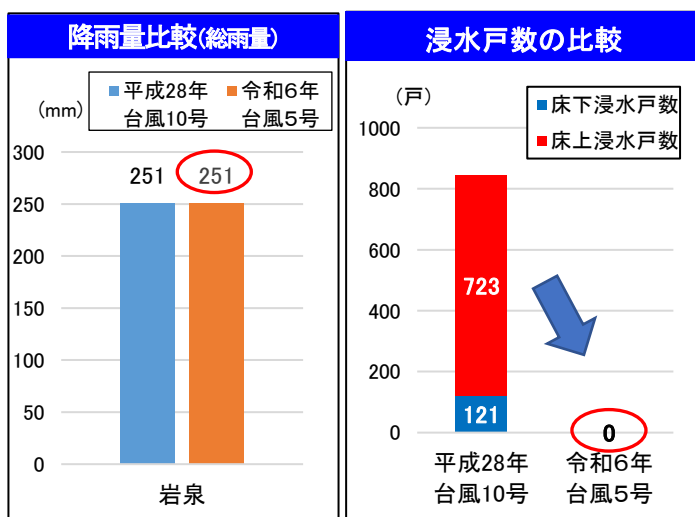
約 30 万 m³ の掘削土処理量を削減

【 整備効果の発現 】

小本川では、平成 28 年 8 月の台風第 10 号で広く越水・溢水が発生し、床上 723 戸、床下 121 戸の家屋等が浸水。

この出水を踏まえ、河川激甚災害対策特別緊急事業等を導入し、緊急的かつ集中的に河道拡幅等の治水対策を推進。

令和6年8月の台風第5号では、平成 28 年台風第 10 号と同規模の総雨量を記録したが、小本川沿川では**整備効果が発現され、河川氾濫による家屋等の浸水被害はなかった。**



令和6年台風第5号の出水状況



小本川と清水川との合流点付近

【 地域とともに歩む取組 】

乙茂工区の河川改修が完了したことを記念して、県・町・地元小学校の児童ら約 50 名で、小本川の堤防沿いにサクラの苗木 40 本を植樹。参加した児童が大人になる頃、満開のサクラの花が見られることを期待する。

